

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284145

研究課題名(和文) 歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究

研究課題名(英文) International comparative study of the dynamism of composite polities in early modern Europe

研究代表者

古谷 大輔 (FURUYA, Daisuke)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30335400

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近世ヨーロッパの国家形態に特化した複合的国家編成をめぐる従来の議論を動的な観点から刷新する目的から、全ヨーロッパを覆った政治・社会・文化的変動に応じた政体理念と統治実践との関係に着目して、「礫岩のような政体」の変容と磁気的な編成を分析した。本研究は国内外の研究者と連携しながら国際比較研究として進められ、君主政や共和政などの政体概念をめぐる知見と中世から近代へと至る国家形成の知見を結びつける新たな分析枠について、総合的な議論を歴史学界に喚起した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to renovate conventional arguments about the composite formation of historic European states from the point of dynamic view. This research analyzed variable moments and magnetic features of conglomerate polities in the early modern Europe with focusing on the interaction between principles of polities and practices of governance. This research was promoted with international collaboration of historians between Japan and Europe in order to compile each argument about conglomerate polities of Europe from a more general perspective. As a result, this research aroused comprehensive academic discussion about a new framework of analysis to combine historical perspective of state formation from medieval to modern times with the perspective of constitutional concepts of polities like a monarchy or republic.

研究分野：人文学・史学・ヨーロッパ史

キーワード：歴史的ヨーロッパ 近世史 近代史 複合政体 複合君主政 複合国家 礫岩国家 国家形成

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近世ヨーロッパを対象とした国家形成研究では、近代国家の発生史を枠組とした近代主義的な近世国家解釈が批判される一方、各地域に保たれた独特な政治文化のニュアンスを踏まえた近世に独特な政治秩序に関する議論が盛んになっていた。こうした議論のなかでも、ヨーロッパ諸国の歴史学界で提示されてきた複合国家論は、中世に独特な政治社会の様態と近代以降の国家経営との間のミッシングリンクを明らかにする分析概念として注目されていた。しかし現地の複合国家論については、各国の研究動向を踏まえた事例研究が各国史単位で進められているものの、各国の知見を総合する試みは遅れ、複合国家への理解は多様な利害関心をもった政体が単一の為政者の上位統治権を承認することでモザイク状に寄り集まった点を指摘するに留まっていた。

(2) 本研究に集った研究者は、近世に独特な国家編成の特徴を総合的に再検討する目標を設定し、基盤研究(B)「近世ヨーロッパ周縁世界における複合的国家編成の比較研究」(平成22~24年度)を実施していた。その結果、伝統的な政体観を継承しつつも地域固有の文脈に応じて新たに育まれた各々の政体観を根拠に、一つの君主政内部においても統治権力と服属地域との接合関係は多様である点、近世的な普遍君主の理念が各地の複合政体に随伴していたという点で研究者間に共通の理解を得ていた。

(3) この研究においては、従来の国内外における複合国家論の研究動向は、その主たる関心が国家編成の成立や維持に集中し、その解体や組替の過程について十分な検討がなされていないため、より長期的な時代文脈を踏まえた動態的観点にたった検討が必要であるとの課題も見出されていた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、上記のような基盤研究(B)「近世ヨーロッパ周縁世界における複合的国家編成の比較研究」で得られた知見に基づきながら、従来の議論で注目されてこなかった複合的国家編成の解体や組替といった変動局面に着目し、これまでの国家形態に特化した複合国家論を刷新すべく企画された。

(2) 中世から近代への時代文脈において命脈を保った近世に独特な政治秩序のダイナミズムを明らかにしようとする際、例えば、政治的・社会的変動を背景とする現実問題に対処すべく、政体をめぐる伝統的な理念が柔軟に改変、適応されてきたという政治思想史研究の知見は、本研究に先んじる成果として示唆的だった。先の共同研究では複合国家の形態は統治権力・服属地域双方の政体観を踏まえるとの所見を導き出していた。

(3) 本研究は、先の共同成果を踏まえながらも、先行する思想史研究の知見にも学びつつ、各地域で命脈を保った複合的国家編成の背景には、同時代の政治的・社会的変動に応じた伝統的な政体観の改変に裏付けられた柔軟な政治秩序の再編が存在したとの着想に基づき、推進された。

## 3. 研究の方法

(1) 中世から近代への長期的な展望に立った国家形成をめぐる先行研究として、近代的な国家経営への内在的發展は戦争のような外在的要因から刺激されるといった国家経営の側面から近代国家の系譜を論ずる議論や、古代や中世に起源を發して継承された公共秩序や普遍君主など、普遍的な政治秩序に関する思想の近世における独特な展開を論ずる概念史研究の議論がある。また先の共同研究成果から、複合的国家編成における統治権力と服属地域との多様な形態は、各々に引き継がれた秩序観や法慣習を根拠として相違が生まれるという所見も得られていた。

(2) そこで本研究は、従来の複合国家論を動態分析の点から前進させるという課題を実現するために、ヨーロッパ全域に影響を与えた社会的・思想的変動を各地域の政体を比較するための補助線として設定し、そうした変動局面に見られた「政体観の変化」と「統治実践の変化」を照らし合わせることで、歴史的ヨーロッパに長期的に存続した複合的国家編成の特質を明らかにすることを研究者間の共通の課題として設定した。

(3) 時代状況に応じた政体理念と統治実践の変動局面に着目しながら、総合的な議論を進めるために、本研究は、複合政体に関する個別実証研究の蓄積が厚いイベリア半島、ブリテン諸島、中央ヨーロッパ、バルト海沿岸地域を専門とする研究者を核とする共同研究体制を組織した。また、今日の欧米の歴史学界において複合政体の議論を個別に展開してきた歴史学者とも連携しながら、各国の歴史学界における知見を日本の歴史学界が「橋渡し」しながら比較研究を進める方針を採った。さらに、複合的国家編成のダイナミズムをめぐる総合的な議論を歴史学界に喚起する目的に立ち、国内外の歴史学者を招聘するワークショップやシンポジウムにて適宜研究成果を公開する方法を採った。

## 4. 研究成果

(1) 本研究は、研究分担者や連携研究者による報告と討議を行う研究会合、海外の研究者を加えたワークショップ(うち2回は本研究がルンド大学(2014年9月)、ケンブリッジ大学(2016年8月)に現地の研究者を招聘して主催した)、加えて日本西洋史学会などでの公開シンポジウムを通じて、歴史的ヨーロッパの国家編成にみられた普遍的特徴の

一つと考えられる「一定の状況で生み出される磁場に応じて可変するポリティア」を「礫岩のような政体」として総括し、その成果を論集『礫岩のようなヨーロッパ』（山川出版社、2016年）に整理して、刊行した。

(2) 『礫岩のようなヨーロッパ』に所収された個別の実証研究は、イベリア半島、ブリテン諸島、中央ヨーロッパ、バルト海沿岸地域に見られた複合的国家編成を対象としている。しかし本研究の成果はそれらの知見を総合して、歴史的ヨーロッパを覆う君主政や共和政、公共善などをめぐる政体観の変遷と、それに裏付けられた統治権力や地域社会など様々な政治レベルに見られた政治実践に着目し、通時的な観点から「礫岩のような政体」の可変モメントを明らかにした点にある。

(3) 近世ヨーロッパの諸地域において、「礫岩」のような政体の可変を刺激した外在的要因は、主権国家体制における政治変動や17世紀の全般的危機のような社会変動、アメリカ・アジアを含めて世界的規模で展開した政治的・経済的抗争、啓蒙思想などの新たな社会的・文化的思潮など、地域と時期の違いに応じて多様である。それらの要因に刺激された政体の変革は、従来の歴史叙述では絶対王政、啓蒙専制、市民革命などといった概念が用いられてきた。しかし本研究は、多様な来歴をもった地域や社会集団が離合集散を繰り返す「磁気的な編成」に着目することで、君主政や共和政といった政体の形態の如何を問わず、歴史的に継承された理念と経験を踏まえた総合的な政治秩序論を提示することができた。

(4) 各々の地域において、同時代の秩序問題をめぐる地域住民の戦略や交渉を検討した結果、「王と政治共同体の統治」(J. フォータスキュー)と称されたような、歴史的ヨーロッパに固有な政治社会の特質が見出された。つまり「礫岩のような政体」に属した地域には、古来の法や慣習を維持しながら君主との関係をもった場合もあれば、それを改めて君主政との間で法の一体性を築いて関係を築いた地域もあることが明らかとされた。

(5) 君主と各々の地域における政治共同体との間の可塑性をもった関係は、地域の個性とそこに生きた人間の能動的な姿を前提とするものである。「礫岩のような政体」の可変モメントのひとつは、政治共同体が、公共体の安寧を目的に社団を創設、操作可能な主権者として「最適」な君主を、そのときどきの状況に応じた戦略に基づきつつ、取捨選択することに見出されることが明らかとされた。また、こうした君主と政治的共同体との関係は、支配の形態という観点から見れば、多くは混合君主政を前提とした関係である。また統治の形態という観点から見れば、君主

と政治共同体の間に築かれた多様な権利義務関係の上に実現されていたものでもある。

(6) 本研究が歴史学界に提起した「礫岩のような政体」論は、モザイク状の政治秩序の実相を単に紹介したものではない。本研究は、状況によって君主と政治共同体との間に生まれる引力や斥力の作用を検討することで、歴史的ヨーロッパを変動させた要因を析出する作業である。本研究で見出された歴史的ヨーロッパの個性とは、君主と政治共同体との間に合意が形成されている場合には「礫岩」のように安定し復元力をもった秩序が維持され、そしてそれが動揺した場合には秩序が崩れる姿である。

(7) 本研究が明らかにした歴史的ヨーロッパの個性は、例えば今日のプレクジットという事態を歴史的観点から省察する上でも重要だろう。例えば、高等法院と最高裁判所によるイングランド政府へのEU離脱に関する議会立法を求めた判断は、イングランドの政治社会に懐胎する王と政治共同体の統治の姿を反映している。このように本研究は、今日的な現象を支える歴史的ヨーロッパの個性を「礫岩のような政体」という観点から明らかにすることで、歴史学研究のもつ今日的意義も示した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計31件)

近藤和彦、文明を語る歴史学-近世の表象、七隈史学、査読無、19巻、2017年、1-11頁

小山哲、17世紀危機論争と日本の「西洋史学」、西洋史学、査読無、260巻、2016年、84-96頁

佐々木真、古谷大輔、近世史研究の現在と「礫岩のような国家」への眼差し、西洋史学、査読有、257巻、2016年、58-68頁

古谷大輔、歴史的ヨーロッパにおける「礫岩のような国家」への眼差し、歴史評論、査読無、787巻、2015年、27-37頁

内村俊太、16世紀スペインにおける修史事業、上智大学外国語学部紀要、査読無、50巻、2015年、201-226頁

古谷大輔、王国の叙法-近世スウェーデンの歴史的景観叙述に見る王国像-、IDUN-北欧研究-、査読有、21巻、2015年、369-386頁

中澤達哉、東欧におけるハプスブルク帝国の政治文化、歴史と地理、査読無、677巻、2014年、40-44頁

中本香、近代スペインの政治エリートのネーション論に見る自由主義、Estudios Hispánicos、査読無、21号、2014年、61-88頁

近藤和彦、礫岩政体と普遍君主：覚書、立正史学、査読無、113号、2013年、25-41頁

後藤はる美、ピューリタン革命から三王国戦争へ、歴史と地理、査読無、236号、2013年、43-46頁

〔学会発表〕(計44件)

Tatsuya Nakazawa, The theoretical basis of the conglomerate formations of the Habsburg Monarchy - Dealing with an emergence in the Kingdom of Hungary -, International Cambridge Workshop "A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern European States", 2016年8月17日, Sidney Sussex College, University of Cambridge, Cambridge, UK

Shunta Uchimura, Spanish composite monarchy and logics of historical legitimacy, International Cambridge Workshop "A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern European States", 2016年8月18日, Sidney Sussex College, University of Cambridge, Cambridge, UK

Daisuke Furuya, Conglomeration of human resources and "Swedification" of Swedish composite monarchy: a case of the Coyet clan, International Cambridge Workshop "A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern European States", 2016年8月18日, Sidney Sussex College, University of Cambridge, Cambridge, UK

Kazuhiko Kondo, King James and "Emperor" Ieyasu meet in 1613: Two conglomerate states and the "English" interpreter, William Adams, International Lund Workshop "Dynamism of the "Conglomerate State" in Historic Europe: The Forefront of Studies on Early Modern European States", 2014年9月11日, Kulturen, Lund, Sweden

Satoshi Koyama, How was the equal status of Lithuanians kept in the Commonwealth of Two Nations? The Polish-Lithuanian union in the light of the memoirs of the Lithuanian Grand Chancellor, Albrycht Stanislaw Radziwill (1632-1655), International Lund Workshop "Dynamism of the "Conglomerate State" in Historic Europe: The Forefront of Studies on Early

Modern European States", 2014年9月11日, Kulturen, Lund, Sweden

Harumi Goto, Cromwellian Union and the Law: the Conglomerate State from a British perspective, International Lund Workshop "Dynamism of the "Conglomerate State" in Historic Europe: The Forefront of Studies on Early Modern European States", 2014年9月11日, Kulturen, Lund, Sweden

近藤和彦、問題提起 礫岩国家と普遍君主、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 複合する政体、集塊する地域」, 2013年5月12日、京都大学、京都府京都市

古谷大輔、礫岩国家スウェーデンと多様な地域集塊の論理 スコーネ地方の併合にみる「バルト海帝国」の形成プロセス、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 複合する政体、集塊する地域」, 2013年5月12日、京都大学、京都府京都市

後藤はる美、「君主のいない共和国」と礫岩国家 17世紀イングランド・スコットランドの法の合同論をめくって、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 複合する政体、集塊する地域」, 2013年5月12日、京都大学、京都府京都市

中澤達哉、ハプスブルク帝国の礫岩国家編成と集塊理論 非常事態への対応：服属地域ハンガリー王国からの正統化、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 複合する政体、集塊する地域」, 2013年5月12日、京都大学、京都府京都市

中本香、王朝の交代と礫岩国家スペインの変質 「新組織王令」にみるブルボン朝スペインの統治理念と実態、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 複合する政体、集塊する地域」, 2013年5月12日、京都大学、京都府京都市

〔図書〕(計32件)

古谷大輔・近藤和彦編、山川出版社、礫岩のようなヨーロッパ、2016年、総221頁(担当：古谷大輔(まえがき、79-115、136-157頁)近藤和彦(3-24頁)後藤はる美(26-54、159-171頁)内村俊太(55-78頁)中澤達哉(118-135頁)小山哲(172-191頁)中本香(192-209頁))

近藤和彦編、山川出版社、ヨーロッパ史講義、2015年、総247頁(担当：近藤和彦(3

-8、90-106 頁) 小山哲 (74-89 頁) 後藤はる美 (107-125 頁))

池田嘉郎編、山川出版社、第一次世界大戦と帝国の遺産、2014 年、総 283 頁(担当: 中澤達哉 (135-165 頁))

山本正・細川道久編、ミネルヴァ書房、コモンウェルスとは何か-ポスト帝国時代のソフトパワー-、2014 年、総 321 頁(担当: 大津留厚 (119-136 頁))

大津留厚編、昭和堂、ハプスブルク史研究入門、2013 年、総 311 頁(担当: 大津留厚 (119-130 頁) 中澤達哉 (153-158 頁))

近藤和彦、岩波書店、イギリス史 10 講、2013 年、総 306 頁

小山哲、東洋書店、ワルシャワ連盟協約(一五七三年)、2013 年、総 90 頁

[その他]  
ホームページ等  
<http://conglomerate.labos.ac/ja/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

古谷 大輔 (FURUYA, Daisuke)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授  
研究者番号: 30335400

### (2) 研究分担者

大津留 厚 (OHTSURU, Atsushi)  
神戸大学・大学院人文学研究科・教授  
研究者番号: 10176943

小山 哲 (KOYAMA, Satoshi)  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 80215425

中本 香 (NAKAMOTO, Kaori)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授  
研究者番号: 30324875

中澤 達哉 (NAKAZAWA, Tatsuya)  
東海大学・文学部・准教授  
研究者番号: 60350378

後藤 はる美 (GOTO, Harumi)  
東洋大学・文学部・准教授  
研究者番号: 00540379

内村 俊太 (UCHIMURA, Shunta)  
上智大学・外国語学部・准教授  
研究者番号: 90710848

### (3) 連携研究者

近藤 和彦 (KONDO, Kazuhiko)  
立正大学・文学部・教授  
研究者番号: 90011387